

県立学校におけるICT活用の現状について

1 高等学校

○ 県立高等学校のICT活用の現状

- ・一斉学習、個別学習、協働学習など学習内容、学習場面に応じてタブレット、大型提示装置等を活用している。
- ・BYODを先行導入している学校では、授業や家庭学習における効果的な活用方法を研究している。

○ 主な活用方法

- ・電子黒板、プロジェクタ等による教材提示
- ・遠隔授業や同時双方向授業
- ・調べ学習
- ・情報の共有
- ・課題等の配信や提出

○ ICT活用における課題

- ・教員の意識や技能に差がある
- ・ICT活用に関する教員研修の不足
- ・ICT支援員の有効活用ができていない

高等学校での具体的な活用事例

○授業における活用

- ・Google Mapのマッピング機能を利用しての植生調査を行ったり、GISを利用してハザードマップの構造や目的への理解を深めている。
- ・商業の授業において、個人またはグループごとに地域の観光地を動画撮影し、県外・海外観光客に対するPR動画を編集している。
- ・英語の授業において、タブレットを用いて各自でスピーチを録画、提出させ、授業担当者は発声・発言内容等を検証し評価につなげている。
- ・学習支援ツールを用いて、授業の振り返り小テストやアンケートを実施している。

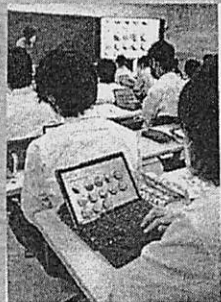


○家庭学習における活用

- ・学習支援ツールを活用し、課題の配信や提出をおこなっている。
- ・学習支援ツールから動画を視聴して自習を進めている。
- ・生徒や保護者への連絡、欠席した場合の教材・課題等の配布を行っている。

○BYOD導入校での活用

- ・端末上で問題演習を進め、間違ったところにタッチペンでマーカーさせ、生徒のつまづき部分のデータを蓄積している。
- ・事前にクラウド上に提出された家庭学習の成果(課題)や授業内で取り組んだ課題を授業中に集約して電子黒板で投影し、書き込みをしながら授業を進めている。



○遠隔教育への活用

- ・病室と教室を結んだ同時双方向授業を実施している。
- ・海外姉妹校とのオンライン交流をおこなっている。

教育改革・ICT推進対策特別委員会資料
令和3年(2021年)8月25日
教育委員会事務局 高校教育課

課題解決に向けた取組

①教員のICT活用に関する意識や指導力の向上

○校内研修の充実

各校で校内の実情にあわせた研修計画の作成

○校外研修(総合教育センター)の活用・充実

- ・ICTに関する研修の充実(R3 研修項目の37%)
- ・学校教育の情報化推進リーダー研修への積極的な参加
過去5年間(H29~R3)で51校中33校が受講
- ・サテライト研修の活用(活用はほぼない状況)
- ・BYOD導入に繋がる研修(名称は未定)を実施予定
- ・情報教育に関する研究(彦根東・八幡商)

1人1台端末環境を利用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた高等学校の授業づくり

○ICT支援員の活用(教育ICT化推進室)

- ・「ICT支援員」の訪問(R3 1か月に1回程度)
新しく導入した機器やソフトウェアの管理・操作支援や質問、相談対応
学校の要望による校内研修
- ・「支援センター」の設置
電話やメールによる相談(4月180件 5月94件 6月83件)
オンラインでのミニ研修の実施

②「ICT活用BOOK」の活用

- ICTの必要性や授業でのICT活用事例を周知
- ICT活用事例の収集→「ICT活用BOOK」の充実

③ICTを活用した学び最適化

- ICT研究校の取組
デジタル教科書・デジタルコンテンツの活用研究
- ICTコアティーチャー
ICT機器を活用した教科指導のモデルとなる授業づくりの研究
- ICT活用・推進セミナー
最新の事例や研究の周知

2 特別支援学校

○県立特別支援学校のICT活用の現状

- ・ICT機器は、16校すべての学校で児童生徒の障害の状況等に応じて活用している。
- ・児童生徒用に整備されたタブレット端末は、学習内容や児童生徒の実態、障害の状況等に合わせて活用している。

○主な活用方法

- ・交流及び共同学習(オンライン会議システム等を用いた学校間交流)
- ・遠隔教育(本校と離れた校舎や病室、原籍校)
- ・調べ学習
- ・プレゼンテーション
- ・入出力支援装置や実物投影機等の活用
- ・アプリや周辺機器を活用した児童生徒の実態把握等

○ICT活用状況における課題

- ・ICT活用に関する意識や指導力に教員間で差がある。
- ・障害の実態に応じた情報モラルの指導を充実させる必要がある。
- ・児童生徒の情報活用能力に差があり、障害の実態に応じて個別に操作方法の指導を行う必要がある。
- ・タブレット端末の機能やダウンロードできるアプリが制限されている。

特別支援学校での具体的な活用事例

○個別学習での活用

- ・視線入力装置などの入出力支援装置を使用してタブレット端末の操作を個別最適なものにカスタマイズしている。
- ・家庭科や総合的な学習(探究)の時間等における調べ学習により、新聞等の提示物の作成などを行っている。
- ・新型コロナウイルス感染症への不安から登校できていない児童生徒に対して、オンライン会議システムを使用した遠隔授業を行っている。
- ・タブレット端末で様々なアプリを活用して、重度重複障害児童生徒の睡眠時間と日中の活動量の因果関係を分析し、学習内容の適切な設定や調整を行っている。(ICTプロジェクト研究)
- ・体育の学習では、マット運動等の動画を撮影し、客観的に自分の動きを知ることで正しい身体の動かし方を確認している。
- ・販売学習の際にアンケート作成ツールを使って、顧客の情報を入力したり、集計・分析したりすることで販売物の製作計画を考える学習を行っている。

○交流及び共同学習への活用

- ・特別支援学校小学部と地域の小学校がオンラインで交流を行う等、コロナ禍において直接的な交流が困難になる中でも継続して取り組める手段となっている。

○遠隔教育への活用

- ・病弱特別支援学校では、オンライン会議システムを使って原籍校や病室と接続し、学習発表等を行っている。
- ・高等養護学校では、オンライン会議システムを使って、「職場見学」や「先輩の話聞く会」等の取組を実施している。
- ・進路指導や職業教育の一環として、「オンライン面接」や「オンライン会議」の練習をしている。
- ・就業体験実習の期間中に登校できない生徒に対する課題の配信や情報共有のツールとして、オンライン会議システムを活用している。

課題解決に向けた取組

①教員のICT活用に関する意識や指導力の向上

- ・ICT支援員の活用
ICT支援員による校内研修を実施し、機器の活用方法から整備に至るまで、機器を活用するための基盤を整えていく。

・研究協議会の開催

特別支援教育教育課程等研究協議会においてICT活用に関する内容を含めた伝達講習を行う。各校での取組や課題などについて資料配布することでICT活用に対する理解を深め、校内での取組促進につなげる。また、それぞれが学んだことを校内で実践していくなかで、2月に成果を求める。(全庁ライブラリ、共通ファイルサーバ等に掲載)

・ICTプロジェクト研究(総合教育センター)

令和2年度は5校、令和3年度は6校の特別支援学校が参加し、最新の機器を活用した実践的な研究に取り組んでいる。(3年間で全16校が参加する予定)

・研修の実施状況の調査と参加促進に向けた指導

各校の研修の実施(参加)状況等の調査を行い研修状況等を把握した結果から、実施率の低い学校には、ICT支援員制度を活用した研修の実施やセンター等で開かれる研修への参加を促す。

②県や文部科学省資料等の活用

- ・県教委作成の小中学校および高等学校ガイドブックの活用を周知
- ・「教育の情報化に関する手引き」等の活用の周知

③県内での実践の共有

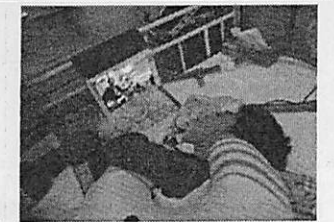
- ・全庁ライブラリ、校務ネットの共通ファイルサーバ等を活用した実践事例の共有

④タブレット端末の利用制限について

- ・個別最適なタブレット端末の利用ができるよう利用規定の在り方を検討



タブレットとタッチペンを活用した授業



病室と学校を結んだ遠隔授業

県立学校におけるICT活用の現状について

教育改革・ICT推進対策特別委員会資料
令和3年(2021年)8月25日
教育委員会事務局教育総務課

3 県立学校におけるICT環境整備のスケジュール(予定を含む)

	令和元年度(2019年度)	令和2年度(2020年度)	令和3年度(2021年度)	令和4年度(2022年度)	
①教室の環境整備		移動式大型提示装置、実物投影機(特別支援学校のみ) タブレット端末等 各校3set 対象教室に無線LAN ウェブカメラ、マイク 導入準備 研究・試行	固定式大型提示装置、実物投影機(特別支援学校) すべてのホームルーム教室等 テレビ会議システム(オンライン授業環境) = クラウド学習ツール		
		Microsoftの包括ライセンスにより、児童・生徒、教員のMicrosoftアカウントを取得し、Microsoft OfficeやMicrosoft Teamsを個人の費用負担なしで利用			
	②機器等の整備		学習者用タブレット端末(特別支援学校小学部・中学部、県立中学校) 1人1台 高校生向け 貸出用タブレット端末(約3,000台)(R3繰越) 授業用タブレット端末 高校各80台、特支各16台+α 入出力支援装置(特別支援学校) モバイルルーター(特別支援学校小学部・中学部、県立中学校用) 充電保管庫(県立中学校、高校、特別支援学校)	1人1台端末による授業の研究・検証(特別支援学校小学部・中学部、県立中学校) 1人1台端末 導入準備	1人1台端末による授業の研究・検証(高校、特別支援学校高等部) 令和2年度に購入済みのタブレット端末を指導者用タブレット端末へ転用(約4,000台)(各校の予備機としても活用)
				高校生向け 入出力支援装置(特別支援学校) モバイルルーター(高校用)	
			導入準備	学習支援ソフト	
		オンライン授業やEdTech活用に向けての研究を行う 導入計画 情報教育支援員(ヘルプデスク+支援員)	EdTechを効果的に活用した、教材や生徒の学習履歴の蓄積方法等の研究を進め、データを整理・分析して授業改善、生徒の指導に活用する		
④研修		研修計画 ICT機器活用能力向上研修、教材作成のためのソフトウェア研修 研修計画 共通教科情報「情報I」対応研修(特にプログラミング)			
			導入準備	統合型校務支援システム システム構築	統合型校務支援システム 運用
⑥ネットワーク	現地調査 校内ネットワーク整備	校内ネットワーク整備(職員室)	運用		
	しが教育ネット回線(50Mbps)	しが教育ネット(回線高速化 1Gbps)	運用		
	教育情報ネットワークシステムの運用(学校Webサーバ、インターネット通信機器等)		学校Webサーバ移行・再構築方法等検討	新・学校Webサーバ	